

○リチャード・マーシャル

ホルネット マスタークラス

2019年10月25日(木) シルバーマウンテン1階

参加者数 約70名 通訳:河野一之

□前半:事前に配布された楽譜を使っのトレーニング

1.姿勢

力を抜くこと。楽器を持つ手にも力を入れない。

2.アンブシュアについて

口の横を張る事が大切。唇の中心を固くしない事。マウスピースを押し付けない事。

3.楽譜を使ってウォームアップ

滑らかにリップスラーを行うこと

4.息の流れが止まらないこと

歌って練習。ハイトーンは横隔膜を使って息を押し上げるように。

5.ウォームアップ

リップスラーは口の横の筋肉を鍛える。ハイトーンは息で押し上げる(車のアクセルをふかすような感じで)

6.タンギングについて

タンギングの時には息のサポートが重要指はしっかり押す事が大切

7.トリプルタンギング

TTK.TKTの二種類があるが、TTKが良いかもしれない。TTKの、TやKを強く練習。一番重要なことは、息の流れが大切。トリプルタンギングの形を均等に整えて、走ったりしないように注意する。歩きながら拍を取って練習するのも良い

8.ダブルタンギングについて

トリプルタンギング同様、形が崩れないように、走ったりしないように注意しましょう。いろいろな調で練習しましょう。

9.音域について

ハイトーンについて:ハイトーンを練習する時は、しっかりお腹で支えることが大切。

10.音の跳躍について

音の跳躍も横隔膜を使って息をしっかりと流すことが大切

11.ビブラートについて

練習方法は拍に乗せて、様々なビートで刻むことが大切。ビブラートは曲を着飾ることができる



このような、基礎的な練習を30分行ってから、曲を練習することが大切。

□後半：個人レッスン（参加者 3 名）

学部 4 年：Concert／Alexander Arutiunian

学部 2 年：Slavonic Fantasy／Carl Hohne

学部 4 年：RUSTIQUES／Eugène Bozza

○ソロのアドバイスについて

- ・曲の物語や背景やふれスタイルを考える
- ・姿勢、視線が大切。広いほ部屋で演奏している気持ちで演奏する
- ・演奏者は聴衆も演奏の一部だと思って巻き込んで演奏する
- ・90 パーセント覚えたら暗譜で演奏する
- ・ビブラートももう少し使って演奏するとさらに良くなる。

その際に、息のサポートをいつも大切にする

- ・ハイトーンは、特にお腹の支え、横隔膜の支えが大切
- ・音が下がってきた時には、アパーチュアを開けて吹く事が大切。しかし、アンプシュア（特に、横の筋肉の支え）を崩さないようにする



□質疑応答

ネガティブな気持ちで練習したり、ネガティブな気持ちで演奏しないこと。楽しい気持ちで前向きに演奏すること。自分ができる最高の事を考える。

深いカップのマウスピースを使った方がいろいろ表現できるとおもうが、自分に合ったマウスピースを使うことが大切。

いろいろな演奏者のサウンドを聴いて、好きなサウンドを感じる事。息をしっかりと流して、良いサウンドを、作っていく事が大切。自分の息がどのように流れているのか、紙飛行機がどのようにとんでいるのか、を感じる事が大切。

合奏の中では聴き合って、ブレンドさせる事が大切。

以上の内容で行われました。

記録：福田昌範

